

「臨床心理士・公認心理師試験対策授業」を見学して

保育児童学部長
信州大学名誉教授
博士（教育学） 岡野雅子

今日の授業は、前回に続いて、過去問を教材とした対策授業でした。

本授業が始まる前に、総長先生のご講話がありました。アメリカ留学中のエピソードから、難しい数学の授業であっても必死に取り組んで、結局「B+」の成績を取ることができた、という事実をご紹介いただきました。そのご経験から、何とかして国家試験等に合格したいと思ったら、教科書を手放さないで朝から晩まで必死になって勉強するしかない、という熱意を込めた総長先生のお話をうかがいました。予習・復習は勿論のこと、同じ教材に何回も何回も取り組むことが重要である、と指摘しておられました。また、アメリカはいろいろな国からの出身者で成り立っているので、アメリカの大学教授はたいへん分かり易い英語で明確に話す、それにより相手を説得する、という総長先生のご経験から、受講生に対して、臨床心理士になった際には、相手の言うことをよく聞いた上で、分かり易く話をすることが重要である、ということでした。

授業は前回の手順と同様の手順で進行しました。まず、院生を順次当てて、問題の提示文を院生が読み、それに対応した解説文と正答を読む、その後、例示文を1つ読み、それに対応した解説文を読む、そして、キーワードに下線を引くように大島先生が指示したあと、正しい例示文であればそのままを間違った例示文であれば正しく直してから、暗記する時間を30秒取る。この繰り返しで1問が終わると、全体について記憶する時間を3分取り、「あと1分です」「あと30秒です」「あと10秒です」「はい止めて下さい」と大島先生が声をかけていました。このような手順で授業を進行すると、受講生にとっては集中力を高めることができ、その結果、重要項目についてよく記憶することができると思いました。確認テストでは、出席者9名が全員満点でした。

最後に、総長先生から、「今日の授業の内容をすぐに復習すること」、「忘れないうちに記憶を繋げていくこと」、そして「必ず全員が臨床心理士試験に合格すること」というお話があり、目標を突破するための方法とエールが送られました。

今日の総長先生のお話の中の、「教科書を手放さないで朝から晩まで必死になって勉強するしかない」「予習・復習は勿論のこと、同じ教材に何回も何回も取り組むことが重要である」というお話は、「学ぶことの王道である」と私は再確認をいたしました。また、授業の手順である「1問の中の1例示文ごとに正答を確認して暗記すること、1問が終わると全体を暗記する時間を取る」との授業の進め方は、上記の「同じ教材に何回も何回も取り組むことが重要である」ことの具体的な実践であることが分かりました。